



「危ないと思って止めて確認」したのに

車掌への責任転嫁のような会社見解は認められない！

乗務線区組合員が現地踏査行動を行う！

車掌位置からの吉川駅の形状
(南越谷方から新松戸方面です)
5号車付近から大きく曲がっています！



車掌側に設置されている ITV
ITV を越えたら、その先は目視だけになります！



6月3日22時15分ごろ、武蔵野線・吉川駅において「何らかの原因でホームから足を踏み外してホームと列車の間に挟まれ転落する事故」が発生しました。転落したお客さまはお亡くなりになるという痛ましい事象でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

当該乗務員の状況は「ITVにて3号車付近にて駆け込むお客さまを認めたが、車両から離れると思い状態監視をしていたところ、ホーム中ほど(5号車付近)にて車両とホームの間に転落を認め非常停止手配を取り電車を停止させた」と車掌としての責務を果たしています。

しかし、会社は「～だろうと判断しない」「危ないと思ったら、必ず止める」など対策になっていないどころか「停止したのが遅い」かのような対応です。

このことから、乗務線区の丸の内車掌区分会では吉川駅の状況を把握するために「現地踏査」を行い2度と同じ悲劇が起きないように原因究明・事故予防運動を展開しています。

現地踏査を終えて

- ・設備が一昔前のものである！
- ・ブザー式の検討や曲線のある駅は、駅係員や警備員を立たせることは必要だ！
- ・車掌の業務の怖さというものを改めて感じる！
- ・現地に立つことは必要だと感じた！実際に乗っている人の話を聞くことが必要だ！
- ・ワンマンがどんどん進んでいく中で安全について考えてなくてはならない。私鉄の方が安全対策は進んでいる！
- ・営業職場では、精神論しか言われていない！
- ・職場で事実経過すぐに出されない！どのような問題が潜んでいるか判断つかない！